

リーディングDXスクール事業【実践事例】

玉野市立荘内小学校（岡山県）

【取組内容③】日常的に端末を持ち帰ることで、より効果的に多様な学びへとつなげる。

6年生 家庭学習

使用アプリ：Jamboard、Googleスライド、学習支援ソフト

【活動内容】

本校では、どの学年においても端末の持ち帰りをしており、家庭学習に活かしています。また6年生児童は毎日端末を持ち帰り、日常的に端末を活用して家庭学習に取り組んでいます。6年生の実践を例に具体的に説明します。

【実践例①】

外国語科
使用アプリ：デジタル教科書、
学習支援ソフト



授業中、各自でデジタル教科書を使って、何度も聞いて読む練習をしました。その後、音読を録音したものを学習支援ソフトに提出するタブレット課題を出しました。

【実践例②】

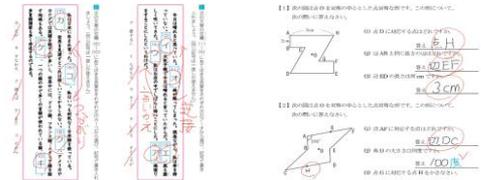
社会科
使用アプリ：Jamboard



社会科では、家庭学習において授業の先行学習を行っています。Jamboardを活用し、教科書の文章や図、写真、グラフなどから分かったことを学習課題に沿ってまとめています。

【実践例③】

算数科、国語科
使用アプリ：Jamboard



国語科の文章問題や漢字、算数科の計算といった練習問題に取り組んでいます。繰り返し様々な問題に取り組んだり、問題を色分けしながら書き込んだりでき、児童の多様な学びにつながっています。

このほかにも、自主勉強に調べ学習を取り入れたり、総合的な学習のプレゼンをGoogleスライドにまとめたり、学習支援ソフトで新聞にまとめたりするなど、家庭学習の取組の幅を広げることができています。学びの幅が広がり、自ら学習課題について考え、楽しみながら家庭学習ができるようになると考えます。